

|| 直言 ||

J A全国青年大会とポリシーブック

「Time to Go ～さあ行こう!～新たな時代に輝き続ける6万の光」というスローガンを掲げ、全国農協青年組織協議会（JA全青協）は2月18日、19日に約1,500人の参加者を得て、第66回JA全国青年大会を開催した。

JAグループ関連の仕事で、もし機会があればやりたいと思っていた仕事の一つが、この大会のメインイベントともいえる、「JA青年の主張」と「JA青年組織活動実績発表」の審査委員長だった。現在から次代にかけて、我が国の農業を背負って立つ人たちの熱き思い、そして行く手に横たわる課題や悩みとその克服策などを真正面から見届け、微力ながら応援したいと考えていたからだ。

また、かねてよりポリシーブック〈2011（平成23）年度より作成が開始された「JA青年部の政策・方針集」〉を評価し、その作成と実践に取り組んできた盟友たちに多くを期待していたことも、思いの一つに加えておかねばならない。

しかし最近、JAグループの姿勢に対して苦言を呈することが増えてきたため、委員長の目は無いと半ば諦めていたところへの吉報だった。

さすが全国の子選を戦い抜いてきただけのことはあった。農業や地域への熱い思いと活動内容を語る12名の発表は、予想以上に内容の濃いものであった。緊張しつつも、堂々と、そしてキラキラと輝く姿を見て、彼らのような存在を増やすことはあっても減らしてはならない、との意を強くした。別掲の表は、発表者ごとにタイトルと要点を整理したものである。

日本農業新聞（2月18日付）は、詳細な発表概要と意気込みを紹介するとともに、論説でも取り上げている。そこでは、「地域と農業をどうやって持続させていくか。地域に根差した青年部員の貢献が求められている」と期待を寄せ、「地域と農業を将来にわたり支えるには活動の広がり」と継続が重要だ。JAや女性部、元青年部員をはじめとした農家や青年部同士に加え、商工会・観光協会やNPO法人、地域運営組織、企業など他の組織との連携も必要になると、「広がり」「継続」「連携」を強調している。すべての発表がこれらの指摘を充足していた、といっても過言ではないが、さらなる進化と深化が求められるところである。

もちろん青年組織にも課題はある。最大の課題は1997（平成9）年まで10万人を数えていた盟友が、2019（平成31）年4月現在で5万6,650人と半減したことである。

今野邦仁氏（JA全青協会長）は農業協同組合新聞（2月20日付）のインタビューに答えて、「少子高齢化で農業後継者が少なくなっているからとだけ考えるのではなく、多くの人に農業、農地の価値についての関心の高まりが少しずつ見えてきていますから、われわれとしては新規参入、親元就農などのハードルをいかに低くし、すそ野を広げて入り口を大きくしていけるかを

(一社)長野県農協地域開発機構研究所長・岡山大学名誉教授

小松 泰信
(本センター参与)



課題にしなければならない」と、語っている。

さらに「われわれはポリシーブックを作り、行動指針とし組織の活性化に活かし、政策提言などを行ってきました。今後は、ポリシーブックをただ『作成』するのではなく、『活用』していくことが課題」とし、「何よりもシンプルに、さあ行こう!さあ動こう!」と、盟友に呼びかけている。

また同紙一面で、黒田栄継氏(元JA全青協会会長)は、まず「人間は食べなければ生きてはいけない、この宿命を一身に背負っているのが一次産業であり、一次産業の安定こそ国民の幸福の根底を支える土台に他ならない」と、第一次産業を位置付ける。

そして、「日本の食卓を守るため、うそ偽りのない農産物を生産し、さらには自らの地域の課題と真剣に向き合い、政策を提言し続ける青年部の声と行動こそが、国民の心を動かすことができる」として、「自らの存在意義とこれまでの取り組みを信じて、情熱をもって前進し続けてほしい」と、熱いエールを送っている。

そこに記されている「政策を提言し続ける青年部」を支えているのが、ポリシーブックである。しかし、12の発表において「ポリシーブック」という言葉が発せられたものは、1発表のみであった。「作る」ことに精一杯で、「活用」にまでは至っていない現場の姿がうかがえる。その点もまた組織の重要な課題である。今は、その課題解決に関われることを願っている。

第66回JA全国青年大会の発表者とタイトルおよび要点

JA青年の主張	JA青年組織活動実績発表
宮城県 JAみやぎ登米南方町青年部 添野俊 「俺の人生ハンドルーフ」 *不慮の事故、農業への誘い、産地復活	北海道 JA中札内青年部 山本信吾 「食育難民」 *地域密着型食育、行政・企業・村内農場・女性部との連携
東京都 JAマイズ調布地区青壮年部 荒井俊一 「一家の大黒柱になるために」 *都青協活動、トマト養液栽培、体験農園、都市農業	栃木県 JAしおのや青年部塩谷支部 鈴木一裕 「農商工連携のまちづくり～青年部にできること～」 *農商工連携、農泊、地方創生
静岡県 JA遠州中央青年部委員会 中村勇貴 「春野を耕し 春野を育て 春野で生きる 春野耕作隊」 *地元愛、地元大学との連携、春野耕作隊	静岡県 JAしみず青壮年部 青木雄基 「百姓いっ喜」 *鳥獣対策、緩衝帯整備、商品開発
奈良県 JAならけん青壮年部五條・吉野支部 中窪祐太 「夜もすがら食を想う～食と農を繋ぐ～」 *調理師、災害復旧と仲間、食育教室	和歌山県 JA紀北かわかみ青年部 海堀篤 「ぼくらがやったこと」 *柿のジョイント栽培、産地の高齢化、視察研修
高知県 JA高知県青壮年部春野本部 大庭啓太 「苦しいからこそ」 *引きこもり、のれん分け制度、新規就農者への声かけ	愛媛県 JA愛媛たいき青壮年部 二宮聖 「『ワクワク!』ノウ男チュウ」 *盟友拡大(支部誕生)、料理教室、ワクワク会議
熊本県 JA鹿本青年部山本支部 原田実 「受け継いでいくもの」 *3人の師匠、熱意・つながり・共育、祖父の願い	福岡県 JAむなかた青壮年部 天野淳一 「“できること”から始める～小さな行動に工夫を重ねて、問題を解決していく方法～」 *ひるイチ、猪肉味噌、できることから